

テーマ：クロスボーダー時代の差別と人権

— 「アメリカ外交史から見る機動戦士ガンダム」 —

"Pasts, Presents, and Futures: Interpreting *Mobile Suit Gundam* in Japan and the United States"

報告者：William Ashbaugh 氏 Associate Professor of History, SUNY Oneonta

(ニューヨーク州立大学オネオンタ校歴史学部准教授、外交史)

フルブライト基金交換教授 (on sabbatical as a Fulbright Lecturer in Japan Teaching
U.S. Foreign Relations at Doshisha University and Kwansei Gakuin University)

※英語による講演 (日本語で内容を要約します)

コメンテーター 阿部 潔 (関西学院大学社会学部教授 メディア論)

司 会 田中きく代 (関西学院大学文学部教授 アメリカ合衆国史)

開催日時 2011年1月13日 (木) 午後1時20分 ~ 午後3時

開催場所 B号館104号教室

主 催 人権教育研究室 研究部会

一般公開・申込不要

この報告は、30年以上にわたるアニメのガンダムを分析するものです。ガンダムの創造者たちは、平和主義の立場から、第二次世界大戦の記憶、右派ナショナリズム、環境問題、そしてアメリカ合衆国の外交政策などを批判する、極めて魅力的なストーリーを生み出しました。優れたすべてのサイエンス・フィクションと同じく、ガンダムの物語は、何よりもわれわれの過去、現在、そして未来を映し出しているのです。こうした身近なポピュラーカルチャーのテキストに戦後民主主義や人権思想、平和思想がどのように影響をおよぼしているかを、戦後日米関係という視点から検討します。



Gundam Statue